LITTLE BIG

第81号 2026.10

発行：福島県立図書館 こどものへや
〒960−8003 福島市森合字西養山1番地
TEL 024−535−3218
https://www.library.fcs.ed.jp/

この『LITTLE BIG』は、「子どもだけど大人」「大人だけど子ども」という人たちへのメッセージです。図書館の司書が読んだ本を紹介しています。みなさんの心のアンテナにひっかかる本があったら、ぜひ手にとって読んでみてください。

言葉の世界へ

現在、世界では 7,000 以上の言語が使用されているそうです（※）。同じ人間なのに、住んでいる場所や民族によって言葉が異なるというのは不思議ですね。たくさんの言語を生み出した人間の創造力に驚きます。今回は、言語や言葉、文字に関する本を紹介します。

（※）諸説あります。



『漢字が日本語になるまで 音読み・訓読みはなぜ生まれたのか？（ちくまQブックス）』
（円満字二郎/著 筑摩書房 2022.7【811/エ】）

交渉、考証など「こうしょう」と読む漢字が何個もあったり、「早い」と「速い」を使い分けたり。普段何気なく使っている漢字には「よく考えてみると、どうしてこんなにややこしいんだろう？」と思うことがあります。それには、本来は中国の文字である漢字に工夫し、手を加え、日本語に取り入れてきたという歴史が関係しています。

毎日目にしている漢字から、連綿と続く日本語の歴史が見えてきます。



『世界文字の大図鑑 謎と秘密』
（コンスタンティノフ/文・絵 青柳正規/監修 若松宣子/訳 西村書店 2023.10【801/コ】）

ひらがな、漢字、英語のアルファベット、ハングル…世界にはいろいろな文字があります。この本にはたくさんの種類の文字が載っています。普段なかなか見ることのない言語の文字や、文字の歴史に触れられる図鑑です。



『隣の国の人々と出会う 韓国語と日本語のあいだ（あいだで考える）』
（斎藤真理子/著 創元社 2024.8【929/サ】）

K-POP などの影響で、韓国の言葉や文化は、ずいぶん身近なものとなっています。しかし、翻訳者でもある著者が朝鮮語（韓国語）を学び始めた1980 年代は、朝鮮語を勉強する人は珍しかったそうです。なぜ朝鮮語を勉強するようになったのか、朝鮮半島の人々が経験してきた歴史、韓国で詩が人気なわけなどを、「言葉」「文字」「声」などの視点から描きます。



『わたしの外国語漂流記 未知なる言葉と格闘した25人の物語（14歳の世渡り術）』
（河出書房新社/編 阿部賢一/[ほか]著 河出書房新社 2020.2【807/カ】）

チェコ語、アイスランド語、ハワイ語など世界の様々な言語を学び、使っている人たちの、言葉に関する体験談集です。なぜ学ぼうと思ったのか？ どうやって学んだのか？ 学習法は？ 日本では学ぶ人が少ないような言語も紹介されていて、そのエピソードの数々に興味がつきません。

＼YAの本棚から／

中高生のみなさん（YA）のためのコーナーから、おすすめの本を紹介します。
今回は海外文学特集です。

かわいい子ランキング

ブリジット・ヤング/作　三辺律子/訳
ほるぷ出版　2022.8【933/ヤブ】



フォード中学の生徒たちの間に突然、女子生徒をランク付けする「かわいい子ランキング」が出回りました。目立つ美人のソフィーが2位、オタクで地味なイヴが1位だったことから、教室のパワーバランスが変化します。普段関わりのない彼女たちは犯人を捕まえるために手を組み、お互いの偏見に気付いていきます。

1位だったらいいのでは、と思うかもしれません。ですが、イヴのお兄さんは「誰かがイヴを物として見たってことだ」と憤り、保護者の一人は「10番だろうと1番だろうと、それは褒められているという意味ではない」と釘を刺します。ランキングは、上位の女の子もランク外の女の子も傷つけるものでした。

周囲の無遠慮な評価に立ち向かうソフィーやイヴはそれぞれ、強さを持った女の子。彼女たちのパワーと友情が読後感をさわやかなものにしています。

ひとりぼっちのクジラとわたしの歌

リン・ケリー/作　久保陽子/訳
静山社　2026.2【933/ケリ】



耳のきこえない少女アイリスは、家の近くの小学校に通い、きこえる子たちと一緒に学校生活を送っています。しかし、校内に手話で会話ができる友だちはおらず、ひとりぼっちの毎日を過ごしていました。

ある日、理科の授業で見た動画で、孤独なクジラ「ブルー55」の存在を知ります。他のクジラとは異なる周波数と独特のパターンをもつブルー55の歌は、誰にも届きません。アイリスは、ブルー55のための歌を作り、遠く離れたアラスカまで会いに行こうとしますが、両親には取り合ってもらえません。アイリスと祖母は、ひそかに計画を立て、ブルー55に歌を届けるため冒険の旅に出ます。6000km以上の旅の結末は・・・？

ゴースト

ジェイソン・レノルズ/作　ないとうふみこ/訳
小峰書店　2019.7【933/レジ】



ゴーストは学校で問題ばかり起こしている、中学生の男の子です。家にお金は無く、父親は刑務所にいて、余裕がある生活とは言えません。自分を抑えられず行動してしまう事があり、「体のなかに悲鳴がうずまいてる」ような気持ちを抱えています。

ある日、公園で陸上チームが練習している姿を見かけます。思いつきでその横を走ったところ、足の速さを見た監督からチームに誘われました。監督の練習は厳しいですが、ゴーストを気にかけてくれます。チームメイトとの関係も上手くいき、日々は充実して行くかに見えました。しかしゴーストはチームに入ってたった数日で、ある罪を犯していたのです。

オラレ!タコスクィーン

ジェニファー・トーレス/作　おおつかのりこ/訳
文研出版　2024.6【933/トジ】



アメリカで暮らす13歳の女の子ステフ。学校帰りには派手な見た目のキッチンカーでタコスを売っている、メキシコ系移民のパパが迎えにくる毎日。過保護な両親にうんざりしつつも、店の手伝いをしながら学校生活を送っています。

ある日、人気歌手のコンサートのチケットが当たって大喜びしますが、両親に子どもだけで行くことを反対されてしまいます。当日は会場近くでキッチンカーの手伝いをすることになったステフですが、それをきっかけに事態は思わぬ方向に進んでいきます。

メキシコとアメリカの文化を背景に、少女の成長を描いた物語です。